

### 高校生インターンシップ 12月10日

先日、高校生4名をインターンシップとして1日間受け入れました。短い時間ではありましたが、生徒の学習の様子を見守り、ときどきしながらも学習支援に関わる姿が見られました。また、初任段階の教師との座談会では、教師を志した理由や仕事のやりがい、悩みについて率直な話が交わされ、将来を考える貴重な機会となったようです。



数学の授業補助をする高校生

### SOSの出し方教育 12月19日

各学年の課題にそって、「SOSの出し方」を学びました。1年生は、自分が悩んだときに誰に、どのように相談すればよいかを考え、気分の落ち込みや不安など心の変化に気付くことの大切さを学びました。2年生は、つらい気持ちになったときにそれを少しでも軽くするための方法を考え、自分なりの対処法や頼れる人の存在を確認しました。3年生は、悩みを抱える友達への声のかけ方や話の聞き方について動画を基に考え、相談する側の心理状態にも目を向けながら、互いに支え合うことの大切さに気付くことができました。



友だちからの相談や悩みを聴く際のポイントや声をかけるコツについて交流する3年生

### 「租税教室」×「財政教育プログラム」 12月8日

北海道財務局小樽出張所と余市税務署の方々を講師にお迎えし、3年生の「租税教室」および「財政教育プログラム」を実施しました。本授業では、税金の役割や日本の財政の現状について学び、日本の財政を自分たちの生活と深く関わる身近な問題として捉え、主体的に判断する力を育むことをねらいとしました。

講話では、税金が教育や医療、社会保障など、私たちの暮らしを支える大切な財源であることを分かりやすく教えていただきました。その後、限られた予算の中で何にどれだけ配分するかを考える「予算編成シミュレーション」に取り組み、生徒たちは互いに意見を出し合いながら、財政の難しさや優先順位を考える重要性を実感していました。今回の学習を通して、社会の一員として税や財政について考える意識を高める貴重な機会となりました。

【授業の感想から】今回の授業を通して、学校で勉強するために1年間に税金が約127万も使われていると知って驚きました。だからこそ、私たちは学校に通えていることに感謝をしながら将来・未来ある社会人になるためにしっかりと学んでいくべきだなと思いました。(中略) 財政には歳出と歳入があって、私たちは予算を考えてみただけですごく難しいことなんだなと思いました。少子高齢化が進み中で、子どもを優先するべきだけど社会的にみたら高齢者のことも考えないといけないし、国を良くしようとして歳出を増やしたらその分の国債費が増えるから歳入として法人税などを増やさないといけないからすごく大変でした。(中略) 選挙権がもらえて選挙する際は自分事として慎重に考えて投票したいなと思いました。

### アイヌ文化を学ぶ 12月11日

ふるさと学習の一環として2年生が余市町水産博物館学芸員の方を講師に迎え「余市町とアイヌ民族の関係」について学びました。講師の高橋様は自ら制作したアイヌ文様入りの半天を着用しながら、文様に込められた意味や歴史について分かりやすく説明してくださいました。子どもたちは、地域の歴史や文化に直接触れることで、アイヌ民族の暮らしや余市町との関わりへの理解を深め、多様な文化を尊重する大切さを学ぶ機会となりました。



余市で出土したガラスのネックレス

約3ヶ月かけて作ったというお手製の半天を着用し説明してくださいました

### 12月24日「ウィンターフェスティバル」開催！！

生徒会が中心となり、東中学校大イベントの一つであるウィンターフェスティバルを開催しました。3種目それぞれで大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。



東中カルタ



スリッパ卓



ドッジボール